

ノイエスだより

ノイエス朝日
(朝日印刷工業株式会社)

群馬県前橋市元総社町73-5
TEL 027-255-3434
FAX 027-255-3435
https://www.neues-asahi.jp
Communication House
NEUES
ASAHI

雨がたくさん降った後は空気が澄んでいて、赤城山も榛名山も木々の一本一本までが見えるように近く感じる時があります。風も心地よく、こんな季節がずっと続けばいいな...というのもしかの間、三十度を超える夏日になったり梅雨の走りで雨が続きたりと、なかなか安定した天候にはなりません。五月や十月は天候が落ち着いているといった考え方は未来には通用しないかもしれません。このまま毎年猛暑と突然の豪雨の日々が続くのでしょうか。

数年前に旧大胡町の荻窪公園の蛸を見に行き、薄暗い中でフワッと光る蛸が幻想的でとても感動しました。去年は早くに鑑賞時期が終わってしまったので、今年は早めに予定して行きたいと思っています。ここ何年かは前橋公園でも蛸が再び見えるようになってきたと新聞で見ました。今年もすでに前橋公園の方は見ごろを迎えているようで、しばらくホテル観賞のために水路付近の街灯を消しているそうです。そういえば、県庁の展望ホールから見ても利根川の水質はかなり良くなってきているような気がします。蛸もまちなかに戻ってきたということで、少しは環境が良くなって自然が戻ってきているのかと思います。人知れずずっと森林や河川や畑を守ってきた人々の長年の努力のおかげなのだと思いますが、その思いや願いを若い世代が自然と続けていけるようにしなくてはならないと思います。今朝の新聞では前橋刑務所の周りの水路にカルガモの親子が滞在していて、散歩する人など近隣の人を和ませているとか。近くに住む私としては、見に行つて和みたい気持ちと、そつと生活させてあげたい気持ちの間でゆれています。それこそ自然が戻りつつある利根川河川敷ではタヌキやテンもいるので、カルガモの子どもたちが襲われないといいのですが。

キャンプなどではしばらく山にしていると、初めは避けていた虫などもだんだん慣れてくるとそれほど目障りではなくなりますが、衛生的な問題もあって虫よけを使って食品や身体を守ったりします。こちらがお邪魔している場所なのに申し訳ないと思いつつも、虫にも小動物にも襲われないように工夫しなくてはなりません。ささやかな数日でも自然と人間の共存の難しさを感じます。一昔前は人間と自然がうまく共存していた里山なども、人が手を入れられなくなって荒れ果て、かえって外来種の植物や害獣などの住処になってしまつて大変なことになっている場所も増えているようです。共存というのはお互いに放つておいて存在するのではなくて、面倒でもかかわりあつて働きかけながら過ごしていかななくてはならないのだと痛感しています。

蛸もカルガモ親子も、見たいけれど守りたい...。どうかずつとそんな平和な四季や自然が続きますように。
(橋本)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

上野村の竹工芸作家三人展 〈企画〉

青木岳男 石井淳 宮川弘尚

六月八日(土)～十六日(日)
午前十時～午後五時(最終日は午後四時終了)

群馬県最西部に位置する上野村は、95パーセントが森林で豊かな自然に恵まれている群馬の秘境ともいわれています。樹齢三百年を超える木々を有する原生林、その自然に囲まれた環境の中で生み出される作品は、まさに自然とともに共存してきた職人の魂ともいえるものです。伝統的な技術と挑戦的な新しい技術、そして何よりも地元の素材を生かして作りだされる作品は、使う人に感動と愛着をもたらすことでしょう。今回は、上野村の竹工芸作家三人による作品の展示販売をいたします。それぞれの個性溢れる作品を手にとつて、生活のなかでご利用いただければと、ご案内いたします。

青木岳男

- 一九五六年 多野郡上野村に生まれる
幼時より父親について竹工芸を学ぶ
- 一九八九年 群馬県美術展初入選 以後連続入選
- 一九九二年 新緑工芸展初入選 以後連続入選
- 一九九九年 日本新工芸展入選
- 二〇〇〇年 モナコ公国主催日本文化フェスティバル招待出演
- 二〇〇八年 群馬県ふるさと伝統工芸士に認定される
- 二〇一八年 群馬県ふるさと伝統工芸会会長
- 現在 ANSCスベイン芸術賞・芸術公論「昇陽賞」他多数
- 現在 群馬県美術会及び群馬県工芸美術会会員
- 群馬県ふるさと伝統工芸会会長
- 群馬県作家協会会員

石井淳

- 一九五八年群馬県上野村生まれ
- 二十六歳から大分県別府市や白杵市で竹工芸の修業
- 二〇〇〇年に田舎に帰り、竹籠作りを始める
- 現在前橋市や高崎市で竹細工教室開催

宮川弘尚

- 一九四六年 北海道小樽市生まれ
- 一九七六年 第十九回新協展に初出品会友に推挙
- 一九七九年 同会員、一九九九年委員、受賞多数
- 一九九〇年 夏の連展に於いて埼玉県知事賞受賞
- 一九九一年 夏の連展に於いて大日本現代美術家連盟賞受賞
- 二〇〇一年 神奈川県茅ヶ崎より群馬県上野村へ移住
- 二〇〇七年 三十年間在籍した新協美術会を退会
- 個展・二人展
- 吉祥寺東急 仙台藤崎、町田東急、茅ヶ崎ワラシナ・ギャラリ、横浜松坂屋、枚方近鉄、横浜元町・ギャラリ元町 他多数

Stone Works 〈企画〉

小淵俊夫彫刻展

六月二十二日(土)～三十日(日)
午前十時～午後五時

群馬での三十八年ぶりの個展です。なんのポリシーもなく、脈絡もなく、ただひたすら創ってきました。作品名を付けませんので、見る人の思うよう、感じるよう鑑賞していただけたら嬉しいですよ。
小淵俊夫

- 一九五七 群馬県に生まれる
- 一九七六 群馬県立渋川高等学校卒業
- 一九八四～二〇〇二 二科展
- 一九八六 多摩美術大学大学院修了
- 一九九〇 「サーフ90石の彫刻オーブンアトリエ」参加(神奈川県真鶴町)
- 一九九二 長野県佐久大石彫刻家シンポジウム参加
- 一九九八 那須野が原彫刻シンポジウム in 大田原⁹⁸
- 二〇〇五～二〇一八 群馬県展
- 二〇一八 「井田淳」と生徒たち展(富岡市立美術館)
- 二〇二〇～二〇二四 「可視」展(ノイエス朝日)
- 個展 日本橋高島屋 多摩市ゆう桜ヶ丘ギャラリ 調布市プラザギャラリなど

第10回 石川薫記念地域文化賞受賞者特別講座

一般財団法人 群馬地域文化振興会

一般財団法人 群馬地域文化振興会(会長 茂原璋男)では、石川薫記念地域文化賞の受賞者による特別講座を定期的に開催しています。受賞者から直接その研究成果をうかがうもので、学術情報の公開と普及を目的としています。

この賞は、群馬県の地域文化振興に多大な貢献をされた故石川薫翁の遺徳を偲び、研究者の顕彰と奨励を目的に平成五年度から始められ、これまでに特別功労賞、功労賞、研究賞、奨励賞が贈呈されています。十回目として左記の内容での開催になりますので皆様お誘いあわせの上、お出かけください。

演題 歴史民俗資料にみる「三河万歳」の足跡

――近世～近現代の群馬県内を中心に――

講師 岡田 昭二氏 (第七回奨励賞受賞者)

元・群馬県立文書館長

日時 令和六年六月十九日(水) 午後一時三十分

会場 ノイエス朝日

費用 参加費五〇〇円(資料代)*定員は四十名とさせていただきます。

申込 事前申込 ノイエス朝日 ☎027125513434

5月24日(金)～6月2日(日) 午前10時～午後5時

6月7日(金)～6月16日(日) 午前10時～午後5時

※チラシは、ノイエス受付にあります。